2. 教育課程評価票（試案）の開発

(1) 教育課程評価票作成の視点

第2年次に「教育課程評価票（試案）」の素案を作成し，研究協力校での試行を進めてきた。この「教育課程評価票（試案）」は本研究の理論研究をふまえ，特に教育課程経営の考え方を重視し，次の五つを作成の視点とした。

- 経営過程を重視した動態的評価
- 評価機能の重視
- 経営的発想に基づく見直しの観点の工夫
- 新学習指導要領に即した評価の工夫
- 実態に即した創意ある評価の工夫

下の表は現在開発をめざし検討中の「教育課程評価票（試案）」の一部を抜粋したものである。

評価対象			P・D・S	評価要素	評価の観点	評定
1 教育目標・教育課程	(1) 教育目標	① 教育目標の設定（見直し）	P	教育目標の認識	教育目標の設定（見直し）の必要性に対する意識が，教師一人一人に高まっている。	
				教育目標の設定手順・方法	教育目標の設定（見直し）のための手順や方法について，全職員の共通理解が図られている。	
			D	教育目標設定への参加	教育目標の設定（見直し）に当たっての資料収集や話し合いに，全職員が組織的に参加している。	
				教育目標の重点化・具体化	教育目標の設定（見直し）に当たり，学年・学級の目標や教科・領域の目標との関連づけを図るため，学年部会や教科部会等が組織的に取り組んでいる。	
			S	教育目標の評価計画の有無	教育目標の設定（見直し）あるいはその具体的手だての段階で，評価計画も作成されている。	
				教育目標設定計画の改善	教育目標の設定（見直し）の評価が，次年度の計画改善につながるよう配慮されている。	
			自由記述			
		② 教育目標の重点化・具体化	P	重点目標の設定手順・方法	重点目標の設定のための手順や方法について，全職員の共通理解が図られている。	
				重点目標設定への参加	重点目標の設定に当たっての資料収集や実態把握に，全職員が取り組んでいる。	
			D	学年・学級目標への具体化	教科・領域目標への具体化を図るため，学年部会等の組織で検討され，学年・学級等の経営計画に関連づけられている。	
				教科・領域目標への具体化	教科・領域目標への具体化を図るため，教科・領域部会等の組織で検討され，教科・領域等の経営計画に関連づけられている。	
			S	評価観点の明確化	教育目標達成評価についての観点が明確にされ，全職員の共通理解が図られている。	
				教育目標達成評価の実施	教育目標達成評価が，計画に基づき，全職員参加のもとに行われている。	
			自由記述			
	(2) 教育課程	② 教育課程の内容	P	編成の基本方針	教育課程編成の基本方針について，全職員の共通理解が図られている。	
				留意事項の設定	教育課程編成の基本方針に基づき，「指導計画作成上の留意事項」が確立されている。	
			D	授業時数・内容の確保	年間の授業時数や指導内容が，地域や学校の実態に即して適切におさえられている。	
				指導内容の重点化・相互の関連	指導内容の重点化と相互の関連を図った指導計画が作成されている。	
			S	実践活動への活用	指導計画が日常の授業の実践に適切に活用できるよう工夫し，適時確かめられるよう計画されている。	

(2) 教育課程評価票（試案）の対象と要素・観点

- 教育目標及び目標系列の教育活動そのものである教育課程の内容を，第一の評価対象とし，このことについては特に詳細に診断し，その評価の目標が達成されるよう評価対象・要素の構成を図った。
- 各教科・道徳・特別活動のみでなく，学校の教育活動全体を通して行う諸活動も含め，生徒指導についても第二の評価対象とした。
- 目標系列の教育活動を支える，「学年・学級経営」・「研究・研修」及び「教育課程の評価」は特別に取り出し，第三の評価対象とした。
- 評価要素の設定に当たっては，教育課程の計画・実施・評価の全過程を予想し「教育課程経営過程分析」により評価要素を抽出した。
- このようにして抽出された評価要素は，各対象ごとに計画（P）・実施（D）・評価（S）のそれぞれの二項目ずつに整理し，各対象ごと六つの評価要素でおさえることにした。
- 評価の観点の表現に当たっては，本研究が経営的発想に基づく評価のあり方としてとらえた「計画化」・「組織化」・「調整化」に配慮し，「共通理解」，「組織的活動」，「協働意欲」などのことばを意図的に取り入れてきた。